

沢村貞子著「わたしの脇役人生」新潮文庫、新潮社 1990年4月25日刊を読む

教育ってなあに？

1. その頃の浅草にも、こぢんまりした幼稚園があった。園長先生は浅草寺のお坊さん——地味で静かな学校だったが、園児たちはゆたかな家の子が多かった。私の兄がそこへ通わせられたのは——溺愛していた父の見栄だったのだろう。おとなしい兄は、毎朝、行きたくない、と駄々をこねて泣いたらしい。
2. 小学生になっても、兄の泣きべそはなおらなかった。その頃はもう、近くの芝居小屋の人気子役だったが、よく、道ばたで悪童たちにいじめられて涙ぐんでいた。
「ワーイ、ワーイ、役者の子、女のきものの役者の子、おしろい臭いぞ、役者の子」
踊りの稽古のための、長い袂の着物をからかわれていた。
3. そんなとき、立ちすくんでいる兄を助けてくれたのは、近所のガキ大将、左官屋の息子の A ちゃんだった。人並みはずれて大柄で、腕っぷしが強く、サッパリしていたので、子供仲間^{いちもく}で一目おかれていた。
「よせよ、弱いものいじめは——江戸っ子の癖にひきょうなことするな、文句があるなら、俺^{おれ}が相手になってやる……」
4. 大きなゲシヨにけおされて、みんなが一足さがったトタン——急に声を小さくして、
「おまえたち、忘れたのかよ、この間、この子のおかげでうまいすし食って、よろこんでいたじゃないか」
5. そばの芝居小屋で「菅原伝授手習鑑」の「寺子屋の場」が出され、兄が普秀才の役をやっていたとき、何かの手違いで手習っ子の数が足りなくなった。狂言方があわてて、子供仲間^{いちもく}に顔のきく A ちゃんにたのんで、この子たちのうちの何人かが駆り出されたのだった。そのときのお弁当が、子供の口には決してはいらない上物のにぎり鮭で、みんな、その味が忘れられないらしかった。
6. 「今度あんなことがあったって、この子をいじめた奴^{やつ}は、よんでやらないぞ、いいか」
悪童どもは、おかげでシユンとしてしまったらしい。
7. 帰って来た兄から、その話をきいた母は、早速、A ちゃんを呼び出して、お礼のおすしをたっぷりご馳走したが——あとで、
「あの子は早くお母さんに別れたし、弟や妹の世話をし、ずいぶん苦勞したからね。ひとの気持

がチャンとわかるんだね」

と感心していた。

8. Aちゃんはこんなことを言ったそうである。

「いじめっ子ばかり怒れないこともあるよ。子供だってそれぞれみんな、辛いことや口惜しいことがあるんだもの……それをじっと我慢してると溜^{たま}っちゃって、ときどき、急に誰かいじめたくなっちゃう。そんなとき——つい弱いものをねらいうちすることになっちゃうんだ……だからさ、いじめられる方も泣いてばかりいないで、なんとかうまく逃げるか、それとも、いなおって、いじめかえすようにしなけりゃ……おれ、学校の勉強はてんで駄目だから、あんまり偉そうなこと言えないけどさ……」

9. と、あたまをかいていたらしいが、母は、

「学校の成績なんて気にすることはないよ、あれはね、この子は何が得意か、ってことを先生から親に知らせるしるしみみたいなものさ。世間にやいろんな子がいるんだから、むやみに順番つけられちゃ堪^{たま}らないよ」

と笑っていた。現在、諸悪の根源のように言われている偏差値の害を、そのころからチャンと感じていたのだろうか。

10. 私が小学6年になったある日、珍しく母に叱^{しか}られた。

「いくら勉強が好きだからって、薄っくらいところで、そう本ばかり読んでたら、しまいには眼が悪くなっちゃうよ」

毎晩、床の中でそっと学校の本をみているのを知っていたらしい。私が急に勉強しだしたのは——女学校の入学試験のためだった。

11. 知りたがりの小娘だったから、いろんな本が読みたかったが、読んだものを理解するためには、上の学校へゆかなければだめだと思った。その頃の下町の、ことに、芝居ものの娘としては、無理なのぞみである——でも、何とか父に頼んでみよう……そう決心して、とにかく、受験勉強をはじめたのだった。

12. (女学校の試験なのだから——小学校で習わない問題が出るはずはない……)

そう考えて——今までの教科書を一つ一つ丁寧に復習していった。

13. 母と兄の応援で……とうとう父の許しをもらってからは、昼間も机の前へ坐りこんだりしたけれど、家事の手伝いは怠けなかった。料理や掃除はけっこう気晴らしになって、洗濯物を干したあと、フツと鶴亀算^{つるかめざん}や旅人算^{たびびとざん}の応用問題がとけたりして——楽しかった。

14. 運よく、女学校へはいれてから、しばらくすると、あちこちから家庭教師を頼まれるようになった。ご時世だから、うちの子も中学校へやらなきゃ……そんな親が近所にふえてきたからである。

15. 学費はアルバイトで稼ぐ、というのが父との約束だったし、未来の夢は女教師で、子供に教えるのが好きだったから、よろこんで引き受けた。
16. ただ——親がいくら勉強させたがっても、かんじんの本人にその気がない、とわかれば、その子の気持を親に話して、机の前から解放してやった。「世間にはいろんな子がいるんだから……」母の言葉が、いつも耳に残っていた。(ほんとに——勉強するばかりが能じゃない)
17. とにかく、何人かの子供を引きうけたものの——こちらはたかが女学生先生……むずかしい教え方を知るわけがない。私自身がしたように——今まで学校で習ったことが充分わかっていたらそれで大丈夫……と、きちんとのみこむまで、くり返し、おさらいした……ときにはおだてたり、すかしたり、ただもう、一生懸命だった。仕上げの応用問題は面白おかしく、うまくとければ手を打って賞めあげて自信をつけさせた。そして翌年、その子たちが入学試験に合格したときは……涙が出るほど嬉しかった。
18. 私のアルバイト、家庭教師業はこうして、あしかけ7年、学生生活を支えてくれたけれど……こんなんびりしたやり方は、現代ではとても通用しないだろう——親たちから、猛烈な抗議をうけるに違いない。
19. かなりの犠牲を払っても、高等幼児塾へ子供を通わせる教育ママは、次は、有名高校へおくりこまなければ、と、あちこちの塾の合格率を必死に見比べているらしい。
20. そして、そのご要望に^{こた}える塾の大攻勢はただもう、驚くばかりである。新幹線の窓の外、夜空に赤く光る大きなネオンは、ひい、ふう、みい、よう……ホテルでもキャバレーでもない——有名塾の名前である。毎朝、新聞にドサッと折りこまれる衣料、食料の売り出し広告にまじってくる大型塾のチラシにも、その塾から何人が有名校に合格したかが、大きな活字で刷られている。いまや学習塾の戦国時代らしい。設備や講師の面でおくれをとる小さい塾はどんどん大きい塾に吸収されるときいて——昔人間はなんとなくこわいような気がする。教育というのは、いろんな子供を、それぞれの個性に従って育ててゆくことではないのだろうか？ 親や社会の望むような規格の枠にはめこむのが、子供の将来のためになる、とほんとうに信じているのだろうか？
21. ひとりっ子で、両親や教師の言うことを素直にきき、よく勉強していた小学4年のいい子が、ある日突然、視力が落ちたという話を元小学校養護教諭、小林静枝さんが書いていられる(子供のしあわせ・1986年5月号)。
22. その子は、すこし前には1.2まで見えていた両眼が0.3、更に0.1に落ち、大学病院の検査でも原因不明——場合によっては失明、という状態になり、親は悲嘆にくれるばかりだったという。

23. ところが、その子がある日、ひとりで学校の保健室にいて、教師用のむずかしい本を、あまり眼を近づけず読んでいるのを見た筆者が、もしやと思って小児神経科医に相談することを親にすすめた。その結果、ストレスによる急激な視力低下ということがわかった。つまり、まわりの期待に押されて、いつもいい子になっていたため、友だちが出来ず、孤独の苦しさ寂しさが心の内部に積み重ねられ、ストレスになって視力が落ちたのだった。それを知った親や教師が何とかして気持を楽にさせようと必死の努力をつづけたが——もの心つくとすぐから、(こうしなければいけない)と自分で自分をかたくしばった縄は容易にとけず、その眼は見えたり、見えなかったり——全治までにはまだ長い年月がかかるらしいという。最後の筆者の言葉が読むものの胸を打った。

24. 「小さいとき何事もなく育っていたかに見えたいい子が、急に親やまわりに反発しだすのは、おとなへ向って自立を始めるときです……この時期に自分の思いを十分にとげきれなかった子供たちの中には、心の屈折がさまざまな形をとって、身体^{からだ}にあらわれることがある……子供たちがいろいろの場で見せる表情を、大人たちは丁寧にみつめたい……」

25. 教育熱心なお父さん、お母さんへ……。

26. 愛する子供が、はげしい生存競争の中で、最後まで生き残れるために——輝やく青春の日々を真黒に塗りつぶしてでも、勉強させよう……というお気持はよくわかります。けれど——一流校から一流会社への道だけが誰にとってもほんとに幸福なのでしょうか？ 折角の親心が、もし子供の未来をゆがめることになったとしたら……これは罪深いことです。

27. お願いします——子供のない私の家庭教師のおせっかいの言葉をホンのちょっとだけ、お気にとめて下さいませんか。世間には、いろんな子供が大ぜいいます。その子たちの未来が明るく幸せなものになるために……。

P183 ~ 189

<コメント>

女子大学生時代に家庭教師を経験なさった女優 沢村貞子さんの教育論。しっかりと受け止めた。

— 2016年7月28日(木) 林 明夫記 —